

# 桐鈴凜々

第104号  
平成27年11月15日発行  
発行責任者  
社会福祉法人 桐鈴会  
理事長 黒岩秩子  
南魚沼市浦佐 5142-1  
電話 025-780-4118  
FAX 025-777-3731  
e-mail  
info@toureikai.com  
<http://www.toureikai.com/>

## 桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す  
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す  
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが  
安心して住める地域を創ろう



## 雪どけの会

〜重い障がい者と対話することを目指して〜



理事長 黒岩秩子

「雪どけの会」という集まり

が新潟県にはある。年に2回集まるのだが、会員たちはその日を待ち望んでいる。「言葉を持たない」と思われてきた重い障がいを持つ人が一堂に会し、通訳を通して対話する、という集まりである。

凜々98号で、井口美賀さんが、昨年夏の夏の集まりを報告してくれて反響を呼んだ。この記事を読んで、これまで、美賀さんの息子健彦さんを知っている人は、「ぶったまげた」という表現が

ふさわしい。まさか健彦さんが言葉を持つていたとは！

障がいの程度区分で言えば最重度の「6」である。いまだ自力での座位はとれない。周りで話している言葉を大まかに理解しているらしいことは、親も、職員も感じていた。

私は、今年の3月新潟で行われた「雪どけの会」に初めて参加した。言葉を発することができない方々の体の中にたまってある言葉を指談や、筆談などで表現する通訳をしてくださる方は、国学院大学の柴田保之教授。

午前中は個別面談、午後はまあるくなつて通訳を介しながら、座談会。これが実に楽しいのだ。10人以上の車いすが、まあるく並ぶが、一人ひとり柴田先生を介して話すことが実にふるつてくる。「妻が、話を聞いてくれる方法があるというので、やってきました。ご覧のとおりうちの妻は人にとられる可能性がある人で、それが心配です」というから、爆笑だった。確かに魅力的な妻だった。それを聞いて「僕も結婚してから事故になればよかった」という人に「いや、僕だったら多分妻に逃げられていただろう」と続く。

8月には今年第2回の雪どけの会が開かれ、井口健彦さん(28歳)も参加した。この時の彼の発言は、周りの人を驚かせた。「僕は、一生言葉がない人として過

ごすと諦めていたのに、こんなことになってとっても嬉しい。今まで僕は、10人いたら抜け駆けはいやなので、10番目でいいと決めていた。」30歳の司会者が言う。「僕より若い健彦さんが10番目なんていうんでとっても驚いた。」



左端が柴田保之先生

それから、小学6年生の男の子がこう言った。「先生たちは、なぜ僕たちが言葉を理解しているということを信じないのだろうと考えてきた。それは、発達段階という観念があるからだと分かった。体を動かすことができないう赤ちゃん、ということになるからだろう。」

工房とんとは、健彦さんのように体の中には言葉がいっぱい詰まっていると思えるのに、言葉の発声ができないばかりにコミュニケーションできない人がたくさんいる。職員たちは、それを何とかして聞き取りたいと思っているので、健彦さんに筆を持って書いてもらっている。今年の抱負では「大学に行きたい」と書いた。「井口健彦」と難しい漢字でもちゃんと書いています。どこで覚えたのだろうか？と母は首をかしげる。健彦さん以外の人の通訳もしてもらえないかと職員たちは考えている。そんな職員たちの気持ちがあっても嬉しい。

## 駅と車椅子

工房とん とん 森山里子

桐鈴凜々102号で、とんとの利用者寺口こずえさんに「始めの一步」という題で原稿を書いていただきましたが、9月5日に十日町で開催された魚沼フォーラムで、寺口さんが浦佐駅で昇降機を使ってとんとんに通所していることを体験発表しました。その発表がとても素晴らしい、堂々としていたと、その日フォーラムに参加した二人の職員から報告がありました。

そこで9月9日の自治会で、急ぎよ全員の前で、寺口さんから魚沼フォーラムで発表した原稿を読んでいただくことになったのです。急な依頼にもかかわらず20分もかかる原稿をみんなの前で堂々と読んだ寺口さんに、職員や利用者の何人かから「感動した」という声が聞かれました。終わってご本人から「知っている人ばかりでフォーラムの時より緊張した」という感想が

聞かれました。

ところで、冬期間はホームも雪が溜まり、滑りやすくなるので危険であり、昇降機を動かすことが難しい、また夕方5時を過ぎると時間外になるので人員の確保ができず対応できないとJRから言われています。夕方5時過ぎが難しいのであれば、とんとの送迎時間を少し早めて、5時前の電車に乗れるようにしたらどうかと検討をし、再度JRにお願いしているところです。



昇降機を利用する寺口さん

せっかく自力で通所できるようになり家族の負担が軽くなったので、通所回数もこれから増やしたいと希望していた寺口さんです。寺口さんのJRでの通所がこれからも継続できるように、さらに車いすの人がいつでも自

由に電車に乗って外出できるよう、これからも応援して行きたいと思っています。

多分もう30年以上も前になると思うのですが「駅と車椅子」という本を読んだことがありま

す。障がいを持った方が電車を出かけたいとさまざまな運動をして、ようやく電車に乗れるようになったという本でした。今回、寺口さんの通所の事をきっかけに、なかなかバリアフリーの実現が進まないことを実感しています。新幹線だけでなく在来線ホームにもぜひエレベーターを設置して欲しいと願わずにはいられません。



## ケアハウス鈴懸

### 鈴木スミさん 追悼

#### 鈴木スミさんを偲んで

#### 鈴懸おはようヘルプ

#### 訪問介護員 上村久美子

スミさんは平成15年にケアハウス鈴懸に入居され、12年間という長い月日を過ごされました。私がスミさんと初めてお会いしたのは、ヘルパーになってまだまだ日の浅い平成24年のことでした。

同行ヘルパーとしてサービスに入った私に「若いのにこういう福祉に携わることは偉い！」と褒めてくださり、黒い縁のメガネを掛けていたので「メガネのポンチ」というあだ名も付けてくださいました。

スミさんいわく「私はあだ名を付けるのは得意なのよ」とのこと。

こと。この時から「なかなかの人だ」という予感があったのでした。

スミさんは看護師、助産師、保健師として働かれた経歴を持ち、「私は人を指導してきた人間です」とよくおっしゃっていました。

居間のお気に入りの回転イスに座り、厳しい「四つの目」(スミさんいわく自分の両目・メガネの両レンズ)で、ヘルパーの仕事振りに目を光らせておられました。

スミさんはとても頑固で自分の意思を意地でも曲げないところがありません。

一筋縄ではいかない強情さなので、職員と何度もバトルをやりあってきました。まさに「あ言えばこう言う」といった感じで、時に職員に対して暴言が出ることもありました。

その度に「スミさんはなぜこんな言い方しかできないんだろ？」と憤りを通り越して切なくなりましたが、スミさんもそんな自分の性格をわかっていたのかもしれない。自分のことを「いじわるババ

アのうるさババア」と呼んだり、バトルの後に職員の手をぎゅっと握り「ああ、あなたでよかったです。本当にありがとう」と感謝の涙を流されることもありました。

ほとほと対応に困らされても、不思議と心の底からは憎めない人でした。

スミさんとケンカした日々がとても懐かしく思い出されます。



詩吟が上手だった鈴木スミさん

スミさんは平成27年の7月頃から自力での歩行状態が困難となり、8月末に萌気園浦佐診療所に入院されました。

当初は一週間の入院の予定でしたが、症状は思っているより

も深刻とのことでした。

それでも面会に行った職員から、本人は「あと2、3日したら退院すると言っている」と聞いて、スミさんらしいお元気そうな様子も伝わってきていました。

スミさんが鈴懸に戻ってくる日が近いかもしれない。そうしたら臨戦態勢で臨もうと思っていた矢先のことでした。

平成27年9月15日、スミさんは入院先にて永眠されました。享年93歳でした。

どんなに周囲を振り回しても最後の最後まで生きる事を諦めないと思われていたスミさんの、あまりにも潔い引き際でした。そのお顔は悔いなく生き切ったように、とても穏やかでした。

スミさん、本当にお疲れ様でした。心よりご冥福をお祈りいたします



スミさんは  
お花が好きでした

## 弔辞

### 桐鈴会顧問 黒岩卓夫



鈴木スミさん

あなたは急に突然、急性心不全で浦佐診療所でこの世を去りました。

平成27年9月15日の早朝のことでした。浦佐診療所の病床はたった9床の小さな病棟です。前日には、スミさんの退院日程、リハビリ目標を決めたところでした。

ここのベッドは、本当は看取りの場ではなく、元気になって退院し、元のところでまた生活を続けるためのものでした。要するに在宅療養支援診療所の支援ベッドだったのです。

スミさんは社会福祉法人桐鈴会の12年来の住人でした。スミさんは男まさりで、物をはつきり、いや、はつきりすぎる程言うタイプで、どこか強圧的な言い回しで同宿者からは敬遠され、

スタッフからも怖がられていました。

しかし私は幸いにして、はつきり物を言う人には慣れており、立場のこともありですが、スミさんとは仲良しでした。

スミさんは詩吟が上手でした。たくさんの漢詩が記憶されており、詩吟独特の口調になるや何時間でも詠うことができた人でした。

スミさんは詩吟に込められた、人と人との別れ、死をおそれず立ち向かう志、男の口調の内に秘められた情愛に、自分の心を、いやおそらく自分の青春の楽しさや悲しみと夢を、詩吟を通して思い出し、訴えていたのではないかと思いました。

スミさんはあの忌まわしい戦争の最中に青春を迎え、当時の一般の日本の女性が選びうる最

も大切な仕事である看護師、しかも最高の日赤の看護師兼助産師になりました。その志は自他ともに誇りうるものだったと思います。

スミさんにいつか私が紹介した、琉球新聞に連載された山本宗輔さんの「戦争の記憶」の第一回目で、従軍看護婦の紹介「死者は船上火葬」を食い入るように読んでくれましたね。記事に登場する守谷ミサさんは最後に「今こそ伝えなきゃ」と生き証人になっていました。

しかし戦禍と敗戦は、スミさんの心にとつて、最も大切なものを奪い、失意の帰郷は、その後必ずしもスミさんの志や夢に合うものではなかったかもしれません。

年長の病院長と結婚し、愛おしい一人娘を育てた人生は喜びもさることながら、自分の人生で置き去りにしてしまったことへの想いは、年老いても懐き続けたと思います。

ひとつ漢詩を御紹介します。

懐君属秋夜 散步咏凉天

山空松子落 幽人應未眠

君を懐うて 秋夜に属す、

散步凉天に咏ず

山空しく松子落つ、幽人応に

未だ眠らざるべし

(韋應物作)

(君のことを秋の夜にあたって、思い出され、話し合いたいが、それもできず、一人歩いて一人詩を口ずさむ。人の気配のない山は静まり、時々松かさの落ちる音がするばかり、おそらく君もまた眠りには入らぬであらう・・・)

詩の中の君が誰かは皆さんの御想像におまかせします。

スミさんは来年の秋、全国の詩吟大会に出席したい。それには私に同伴してほしいと何度も

繰り返し言われました。  
私は必ず一緒に行く」と約束しました。

しかしスミさん、約束が果たせなくてごめんなさい。

でもスミさんは、亡くなる、無くなったわけではありません。

あなたの人生は、素晴らしい物語として、娘さんや友人や桐鈴会に語りつがれていきます。誰でも人生は一つの物語を作りますね。その物語が交流して人と人がつながって本当の世の中が生まれると思います。人の物語は、この世もあの世もあります。彼岸と此岸は物語のかけ橋でつながります。

スミさん、これからも自分の物語をこの世もあの世も越えて語りつづけて下さい。

私の弔辞はお別れの言葉ではありません。今日、これからお互いに語り合う新しいステージをつくり、未知の世界を開拓する記念すべき日としたいと思います。

それでもこれまでの長い人生ごくろうさまでした。  
しばらくはゆっくり休んで下さい。

平成27年9月16日

萌気園浦佐診療所から

黒岩卓夫

## 新入居者紹介

グループホーム桐の花入居者

### 木津三枝さん

お盆過ぎの8月24日に入居された木津三枝さんです。山崎新田生まれの浦佐育ち。

長年、旦那様の介護を頑張り最期を看取りました。

確定申告などの事務仕事をバリバリされていたことが、今でも「私の自慢です」と話されています。

入居時は戸惑いもありましたが、今では皆さんと楽しく毎日を過ごしています。

「私は小さい頃から好き嫌いがなくなんでも食べます」と話していた通り、いつも「おいしい

いです、ありがたいです」と感謝の言葉が聞かれます。



10月に誕生日を迎えた木津三枝さん

日頃のお手伝いの洗濯たたみや食器拭きは誰よりも丁寧です。文化祭に出展した刺し子は、とてもとても90歳とは思えない出来栄で、眼鏡もかけずチクチクと黙々と頑張っていました。

お部屋の掃除をするたび、お風呂に入るたび「大変だのう、先生は神様だ、嬉しくて涙が出る」と言ってくれます。

入居した時に木津さんは、「昔

はこういう施設がなかったけど、今はあちこちにいっぱいできて助かります、お世話になります」と話していました。

私たちは日々、入居者の皆さんの言葉や笑顔に元気をもらったり癒されたりしています。木津さんのこの言葉も仕事をすすめるうえでの原動力になるありがたいお言葉だと思えました。

桐の花介護員 勝又紀子



## 秩子の部屋 おひさま編

### 第二回 覚張一夫さん



59歳の覚張さんの時代は、自宅出産が主流でした。お母さんの実家(須原)で生まれ、堀の内の田戸で2歳下の弟と育ちました。父と母は、田んぼや畑で働き、父は土方もしていました。今はなくなってしまうた田戸小学校で6年間過ごしました。中学校では堀の内中学の特殊学級(特別支援学級)に入り、そこを卒業しました。

―学校はどうだった？

小学校の時は時々勉強ができないからと言っていじめられたけど、でも遊んでもくれた。中学では、同級生からいじめられた。たまに仲良く遊んでくれる人もいた。

―卒業してからどうしたの？

特殊学級の1年先輩が、埼玉

の「フジパン」に勤めていて、そのお兄さんを通して薦められたので、そこに就職して、寮に住んだ。その先輩は、ずうっと「フジパン」について、嫁を貰って家を建てたって聞いた。

2年ぐらいでやめて小出のパン屋に移るとき「フジパン」の親方が言った。「新潟に戻っても親方の目で厳しく言われるよ。」でも僕はそんなことはないと思っていた。でも実際にそのパン屋で働いたら、親方が言うことが本当だと思った。「フジパン」よりも厳しく言われた。

―どんなこと言われたの？

「お前は、パンのこと全然わからないじゃないか」とか。僕は「フジパン」では、お菓子を作っていたから、パンのことはわからなかったんだ。それでも我慢して6年そこにいた。

―やめてどうしたの？

佐藤産業に勤めた。ここは女衆がたくさんだった。その中の一人が、「よく我慢したね」と言ってくれた。いくら救われた。その後、クリーニング屋で働いていた時、腰が痛くなって小出病院で手術した。この時に世話になった看護婦さんが、今とんとんにいる磯部さんだった。磯部さんと20年ぶりに会えてうれしかった。

―シンガポールファッションにはどうしていったの？

ハローワークで探した。母がリ्यूマチになっていたので、母が生きているうちにしっかりと会社に入ろうと思った。

シンガポールファッションでは面接をされて、準職員にしてみらった。4年ぐらいして、手がしびれたり、足がしびれたりしてきて、後縦靭帯骨化症ということになり、長岡中央病院で、手術を受けた。

―私もね、50歳の時に、色々なことが起こって、大和病院で、後縦靭帯骨化症だって言

われたことがあるんだ。実はそうじゃなかったのだけど、この病気のことはずいぶん調べたよ。だからあなたに親近感を持っていたの。

それでああなたは手術の後、長岡にある王見台というリハビリの施設に行っただよ。王見台でリハビリをしてもらって、車椅子でおひさまに引越してきた。それから自分でリハビリをして歩けるようになった。階段の上り下りなんかで頑張ったんだ。そのおかげで駅まで行けるようになったから、ずいぶんいろいろなところに出かけられてうれしい。

―あなたって音楽が好きだよね、葉月みなみさんが来て夢草堂でコンサートをした時、涙流していたよねー。

演歌が好き。北島三郎、藤あや子、香西かおり、とかね。島津亜矢も好きで、長岡市立劇場まで聞きに行ったりした。

―あなたのお父さんはどうしているの？

母が亡くなってからしばらく

して、父が田んぼに水を見に行かなくなった。夏になったら田んぼが藪のようになってしまった。その時に父が認知症になったことが分った。それから父は、デイサービスに行ったりして、弟と二人で住んでいる。

—まあ！大変だったのね。

母が死んだとき、父の姉妹に怒られてしまった。何でかは忘れたけど。そのことを上司に言ったら、「大変だね」って言うてくれた。その時心が柔らかくなった。

—楽しかったことは？

たくさんある。中学の時には、仲良しの女の子がいたし、その子は嫁に行ってしまったけど。今でも電話でおしゃべりする友達もいる。

—シンガポールファッションでは楽しかったみたいね。今でもとんとのパンを持っていったりしているものね。またシンガポールファッションに勤めたいかと思う？

もう年を取って前のような体

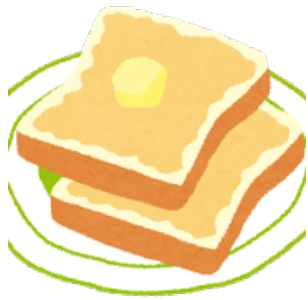
力はないから無理だと思っっている。

—堀の内工芸に行ったこともあるの？

行っただけど楽しすぎて！少しでやめてしまった。（そういえば、ほかの事業所から最近とんとんに移ってきた利用者さんが、「楽しすぎ」と言ったことを思い出しました）

—おひさまはどう？  
住みやすい。

—とんとんやおひさまに言っておきたいことはない？  
ありません。



お得意のポーズを決める覚張さん

♥おひさま職員から一言♥  
覚張さんにとっては8年間のパン屋さんの経験は大きな自信につながっています。とんとんでもパンの仕事が一番好きだそうです。  
お父さんが利用し、弟さんが勤めている介護施設の皆さんとも交流があり、とんとんの感謝祭には皆さんで来てくれました。いつも楽しい話を聞かせる、やさしい覚張さんです。

## 工房とんとん

すず カフェ ~able~

新作パンの紹介です。

かぼちゃパン ￥100



アリオヴェール ￥130



レーズンシナモン ￥150



～お知らせ～

閉店時間の変更

11月～3月まで

16:00

(ラストオーダー 15:30)

定休日 日曜、月曜、祝日



# 夢草堂からのお知らせ

主催 夢草堂運営委員会

## 夢草堂 音楽会 クリスマスコンサート

市内の素敵な音楽家たちが夢草堂で音楽会を開きます♪

ピアノ演奏と歌を楽しみましょう♪♪

日時 12月5日(土) 14:30~

場所 夢草堂

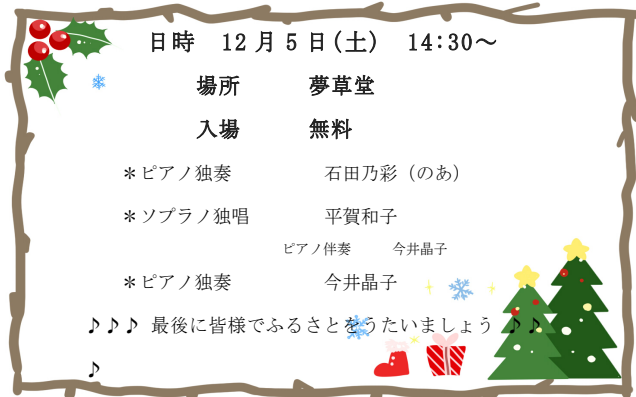
入場 無料

\*ピアノ独奏 石田乃彩 (のあ)

\*ソプラノ独唱 平賀和子  
ピアノ伴奏 今井晶子

\*ピアノ独奏 今井晶子

♪♪♪ 最後に皆様でふるさとをうたいましょう♪♪♪



### 出演者 プロフィール

石田乃彩 現在浦佐小学校4年 平成27年11月に行われた第65回ヘレン・ケラー記念音楽コンクールにてピアノ1部において2位受賞

平賀和子 東邦音楽大学声楽科卒 9年間学校に勤める 県内や東京でコンサートの出演 コーラスひまわり団員(市内) 市内仙石在

今井晶子 東邦音楽大学ピアノ科卒 東京都出身 ピアノ指導および演奏活動中 南魚沼市教育委員 市内中之島地区在



お問い合わせ ケアハウス鈴懸 TEL 025-780-4118

## AKIRA LIVE

IN MUSOUDOU (夢草堂)

年間200回ものライブをこなし世界中を旅する

個性派ミュージシャンが夢草堂にやってくる!!

新潟で、障がい者と共演ライブの経験あり

癒しの空間を音楽で紡ぎます♪

日にち 11月24日(火)

時間 午後2時より

場所 夢草堂

入場 無料



AKIRA

1959年日光市生まれ。世界100カ国以上を旅し、23歳から10年間、ニューヨーク、アテネ、フィレフツェ、マドリッドに住み、アフディ・ウォーホルから奨学金を受け、作品を発表しつづける。小説家、画家、ミュージシャンとして多くの人々から支持されている

お問い合わせ 77172鈴懸 TEL 025-780-4118

上記コンサートでピアノ演奏する石田乃彩さん(浦佐小4年)は全盲です。今年11月7日ヘレンケラー記念音楽コンクールで見事一位を受賞しました。

### 編集後記

桐鈴会には、入居者と職員あわせて数名の障がい者がいます。障がいがあり、経済的にも決して恵まれていないわけではありません。世間的に見ると多分「気の毒」「不幸せ」な人と映るかもしれませんが、職場の行事、お祭りなどがあると楽しそうに参加し、買ってきたものを見せてくれたりします。仕事を持ち、休みの日を楽しみにし、自分が出来ることは自分で、出来ないことは、誰かの力を上手に借ります。それが日々の暮らしの中で自然に営まれていきます。こうなるまでにはそれなりの嫌なこと、悲しい体験もありましたがその都度様々な支援を受けながら今にいたります。ささやかながら穏やかに暮らす姿をみると「福祉」の意義を感じます。「福祉」は中国漢の時代にすでにあつた言葉だそうです。意味は「与えられた人生を悠然と生きていく」全ての人がこの言葉通りに生きていける社会であってほしいです。

鈴木智子